

---

あなたがたは、わたしたちの奉仕を通じて書きあげられた「キリストという手紙」であり、墨ではなくいのちある神の霊によって、石の板ではなく人間の心の板に書きつけられたものです。

—コリント人への第2の手紙第3章3節—

---

2013年 春

一年間だけの授業で出会った人たち・ふり返り

【パソコン室調べ授業】

「出生前診断について調べ、自分の意見をもつ」

意見文。現在の考え。将来その時になったら、診断を受診するか、受診しないか。半々。他、分からない。

受けるという人の代表意見。リスクの問題が解決されたらきちんと調べておいて、生まれてくる児に障害があるなら、覚悟しておきたい。

受けないという人の代表意見。診断によって迷わされたくない。

どちらにしても、受診を迷っても迷わなくても、生まれてくる児の障害が分かっても分からなくても、産まないという意見が一人もいなかった。驚いた。感じ入った。

授かったいのちに対して、いかなる手もつけるべきではない、という意見があった。

【教科書教材からのアンケート】

「自分の子どもに『ちゃん』づけすることについて」

自分の子どもは呼び捨てで育てるという意見が多かった。また『ちゃん』づけすることの意味の大きさよりも、親と

しての愛情のかけ方を重視すべきという意見が多かった。しっかりしている。ぶれない。感じ入った。

11月23日の修養会。皆が書いた「かみさまへの手紙」

かみさまへのそれぞれの願いや希望があり、それが書きつけられ、集会祭儀で捧げられた。

この、女性として正しい道すじをもった人たちよ。祝福あれ。

それぞれの人の「かみさまへの手紙」を生きる人であれ。

(国語科 高橋 覚)